

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	黒磯市立大原間小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	3	3	2	1	17	25
児童数	101	66	101	105	100	75	3	551	

研究の概要

1. 研究主題

自ら考える力を育てる学習指導のあり方
～国語科・算数科をとおして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・国語科・全学年
自ら考える力を育成するために、「コミュニケーション能力」は欠かすことができない。研究主題にせまるため意図的に言語活動を取り入れて話し方・聞き方の技能を具体的に指導する。
- ・算数科・2年生～6年生
児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、個に応じた指導の方法・体制を工夫していけば効果があると思う。

(2) 年次ごとの計画

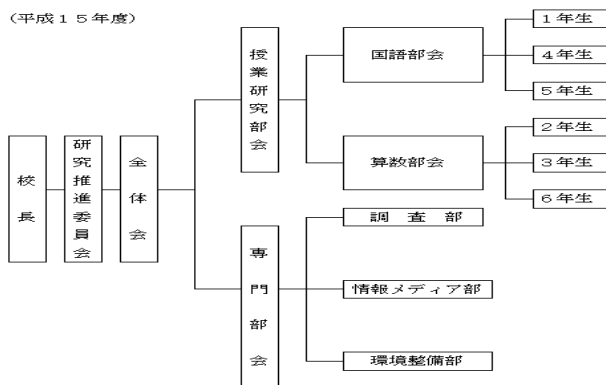
平成14年度	<p>テーマ 個に応じた指導の研究 ～国語科・算数科をとおして～</p> <p>仮説 「学ぶ力・学ぼうとする力・学んだ力」に必要な基礎・基本と言語能力を一人一人に確実に定着させていけば、生きる力の育成につながるのではないかと。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科・国語科を中心に、理解や習熟の程度に応じた指導方法を研究する。 ・教科担任制による指導(高学年学級で教師の得意教科による指導)を導入し、きめ細やかな指導法について研究する。 ・課題別・習熟度別などの学習集団編成の在り方・指導体制の在り方を研究する。 ・算数科・国語科において、習熟度別学習に適した単元を洗い出し、年間計画に位置付けを行う。 ・指導に生きる評価の観点や評価方法を研究する。 <p>(2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導の教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科では、新学習指導要領で削除され、次学年に入らない内容の洗い出しを行う。 ・数学的思考の多様性のある発展的な課題を開発する。 ・国語科では、音声言語によるコミュニケーション能力を高めるために、「話す・聞く」領域に係わる単元の洗い出しを行う。(全学年) ・個に応じた言語活動の教材開発を行う。 <p>(3) 学ぶ習慣を育てるための方法・工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習・宿題の与え方 ・学び方(学習技能)の育て方 <p>(4) 基礎的な知識・技能の確実な定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」領域に絞って、学年ごとに学習内容を洗い出し、計算プリントを作成し、計算力の向上に努める。 ・各学年に配当されている漢字の読み書きプリントを作成し、漢字力の向上に努める。 ・学校全体で音読指導・読書指導を行い、読解力の向上に努める。
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 自ら考える力を育てる学習指導のあり方 ～国語科・算数科をとおして～</p> <p>仮 説 自分の考えを表現する技能を身につけ、問題解決の場でコミュニケーションを活発に取り入れていけば、自ら考える力が育つのではないだろうか。</p> <p>研究内容・方法 (1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 (2) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導の教材開発 (3) 児童の学力の評価を生かした指導の改善 (4) 言語能力（音声言語の技能・文字言語の技能）を高める指導の工夫 (5) 自分自身や他者とのコミュニケーションが活発になる授業の工夫</p>
----------------	--

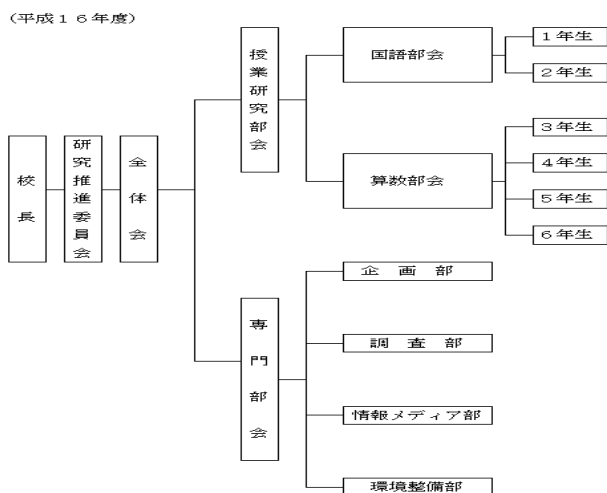
平成 16 年度	<p>テーマ 自ら考える力を育てる学習指導のあり方 ～国語科・算数科をとおして～</p> <p>仮 説 自分の考えを表現する技能を身につけ、問題解決の場でコミュニケーションを活発に取り入れていけば、自ら考える力が育つのではないだろうか。</p> <p>研究内容・方法 (1) 個に応じた指導と集団での学びの良さを生かした指導計画の作成 ・2年次までに洗い出されたメリット・デメリットをもとに、単元の内容や児童の実態を考慮し年間指導計画を作成・実施していく。 (2) 指導に生きる評価の観点や評価方法の研究 ・個人評価カルテの改善 ・情意面の評価のあり方と指導への生かし方 (3) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導の教材開発 ・発展的な学習として取り扱いが可能な内容（新学習指導要領で削除され次学年に入らないもの）の、見直しと教材開発 ・2年次までに使用した補充的な学習の整理・充実 (4) 言語能力（音声言語の技能・文字言語の技能）を高める指導の工夫 ・「話すこと・聞くこと」に関する指導計画表の改善・実施 (5) 自分自身や他者とのコミュニケーションが活発になる授業の工夫 ・課題意識を持たせるような課題提示や発問の工夫 ・ノート活用の工夫</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制

（平成15年度）



（平成16年度）



平成16年度の組織は、授業研究部会の国語部会を1・2年生、算数部会を3・4・5・6年生に変更する。低学年を中心に言語能力を高める指導の工夫について研究し、その他の学年に広めていく。中学年・高学年は、平成15年度の課題をもとに、算数科での研究を進めていく。

専門部会は、企画部を復活し研究を支える条件整備・保護者・地域への情報発信・公開までの計画・準備など行う。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

個に応じた指導のための指導方法・指導体制を実践研究してきたところ、少人数指導のメリット・デメリットが明確になってきた。来年度に向けてメリットを生かした年間指導計画を作成し、より効果的な指導方法・指導体制を取っていききたい。

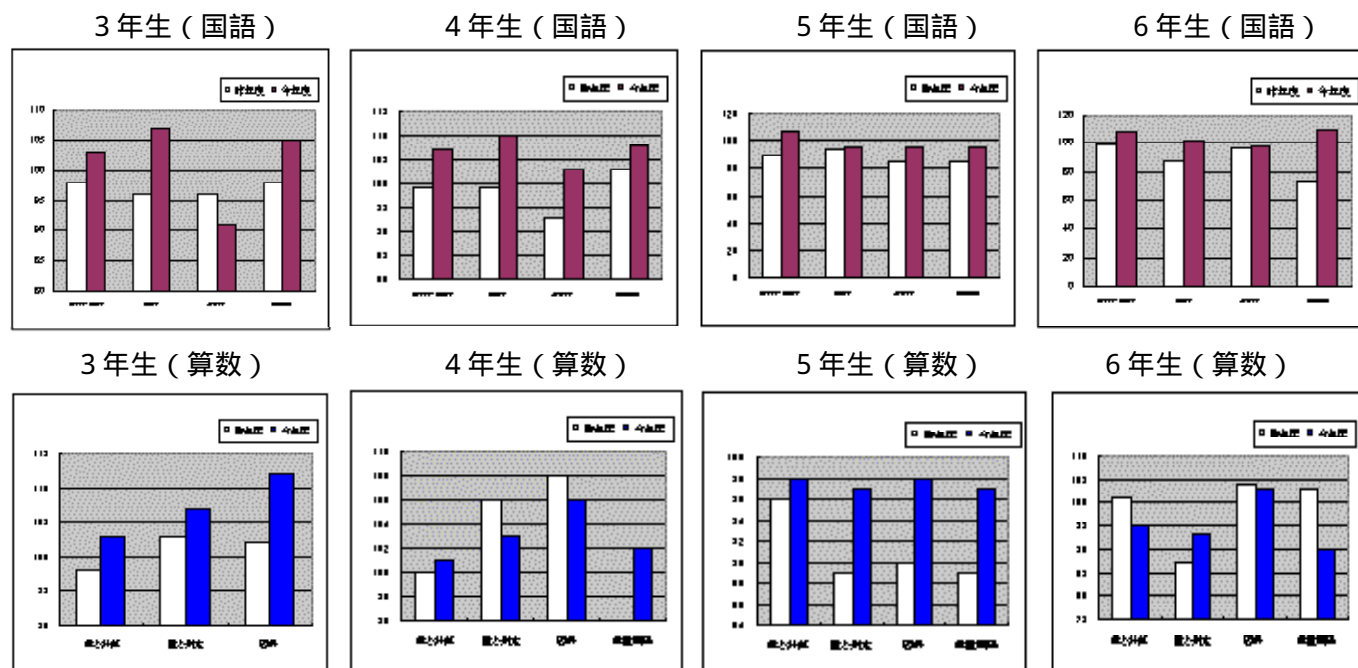
算数科の授業において、次学年の学習に必要な内容であるが、内容の削減のためなくなってしまう学習内容の洗い出しを行った。来年度、学習指導要領の一部改訂があり、「はじめて規定」がなくなることなので、その内容を無理のない程度に、発展的な学習として扱いたい。

少人数指導は複数教師で取り組むので、教師間での評価情報を共有するために個人評価カルテを作成した。学年ごとに単元の評価規準と予定時間を相談する時間をとることで、評価の信頼性を高めていきたいという教師の意識が高まった。

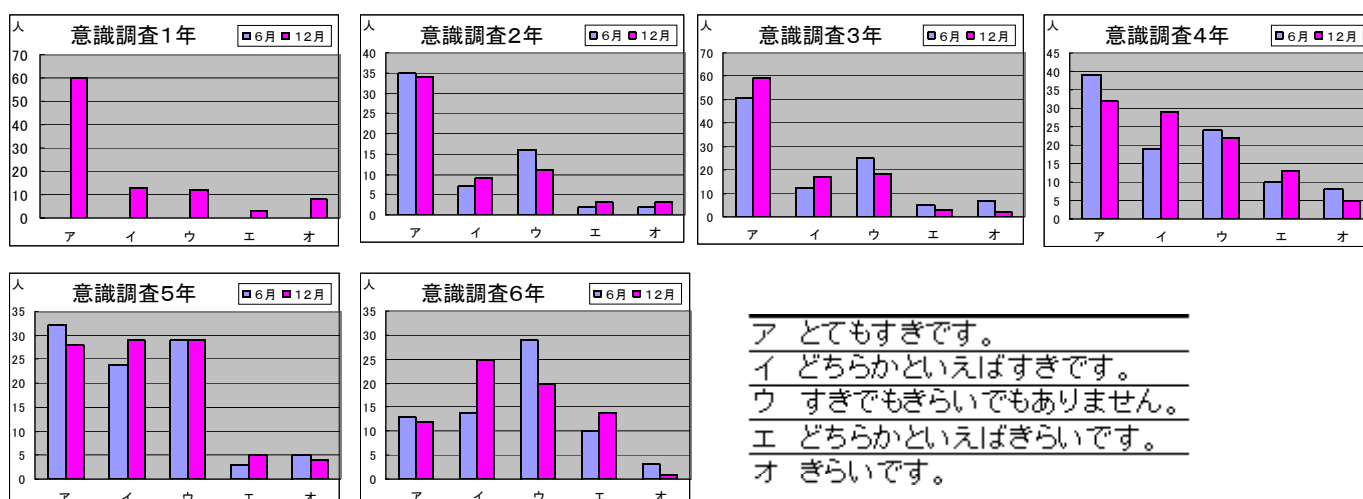
国語科において、「話すこと・聞くこと」に関する指導計画表を作成した。指導の場と関連スキルを明確にしたので、計画的に指導を進めていきたい。

下記のグラフは、全国標準診断的学力検査（NRT）の平成14年度と平成15年度の結果である。領域別に、全国を100とした時の全国比を前学年（同じ児童）との比較を行ったものである。（4年生の昨年度の数量関係は3年生であるのでない。）

国語科は、3年生の「読むこと」を除いて、昨年度より伸びている。算数科は、3・5年生は伸びてきているが、4年・6年生は全体的に伸びていない。しかし、4年生は全国通過率に比べ高い。全体的な傾向として国語科は「読むこと」が低く、算数科は高学年の数量関係が下まわっている。



下記のグラフは、算数科について児童に意識調査をした結果である。（6月と12月との比較）



（1年生は1学期に少人数指導を実施していないので調査結果はない）

「とても好き」と「どちらかといえば好き」の総数で6月と12月を比較してみると、度合いに差があるものの、全学年ともプラスの傾向にある。

逆に「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」の総数で6月と12月を比較してみると学年によってばらつきがあるものの、3年生の-7は例外として、プラス2以内におさまっている。

2. 今後の課題

個に応じた指導と学校教育だからこそできる集団での学びのよさの両立を目指した指導計画を作成していきたい。
情意面の評価は担当者によって判定結果が曖昧な点があった。評価の信頼性をより高めていくために、どの場面でどのような子供の行動特徴を見取るか明確にしていく必要がある。
少人数指導を実施してのメリット・デメリットをもとに、実施する単元を精選し、計画的に実践していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 集団基準準拠テスト（NRT）の実施（4月）
- ・ 目標基準準拠テスト（CRT）の実施（2月）
- ・ 児童アンケート（6月、12月）
- ・ 保護者アンケート（12月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成15年8月 8日 栃小教研那須支部夏季一斉研修会算数部会で「学力向上フロンティア校としての取り組み」について発表した。
- ・ 平成15年8月19日 第1回那須地区学力向上推進協議会で「研究主題 自ら考える力を育てる学習指導のあり方」について発表した。
- ・ 平成15年9月12日 黒磯市学習指導主任会を本校会場で実施し、公開授業を行った。
- ・ HP 公開予定 (<http://www4.nasuinfo.or.jp/~oharama/>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ☐ 15年度からの新規校 ☐ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 ☐ 6学級以下 ☐ 7～12学級
 ☐ 13～18学級 ☐ 19～24学級
 ☐ 25学級以上
- 【指導体制】 ☐ 少人数指導 ☐ T・Tによる指導
 ☐ 一部教科担任制 ☐ その他
- 【研究教科】 ☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数 ☐ 理科
 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作 ☐ 家庭
 ☐ 体育 ☐ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ☐ 有 ☐ 無